

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 20 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370942

研究課題名(和文) 弔いの形をめぐる歴史民俗学的研究

研究課題名(英文) The Historical Folkloric Study of Funeral Rites

研究代表者

川村 邦光 (KAWAMURA, KUNIMITSU)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30214696

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、何よりもまず『弔いの文化史 - 日本人の鎮魂の形』(2015年)を刊行し、研究成果を社会に向けて幅広く発信できたと考える。本書および本研究では、第1に、弔いに関するこれまでの歴史民俗学的研究を踏まえて、弔いの作法の歴史的な変遷を分析し、“弔いの民俗史”を考察した。第2に、遺影がプライベートな領域からパブリックな領域へと展開する軌跡から構成される“遺影の故人史”から“弔いの文化史”を明らかにした。第3に、念仏踊り・盆踊りは生者と死霊が成長・成熟するための共同の営みだとする、折口信夫の民俗芸能論に依拠して“弔いの芸能史”を構想し、弔いの作法を探究した。

研究成果の概要(英文)：In this study I published *The Cultural History of Funeral Rites: Japanese Manners of Memorial Services* (2015), and I thought that I contributed to the society by this book. In this book, firstly I explained that I considered the historical process of memorial services, that is, ‘the historical folklore of funeral rites’ according to the study of the historical folklore concerning funeral rites. Secondly, I cleared up ‘the cultural history of funeral rites’ from ‘the deceased’s history of the deceased’s photograph’, which constructed the locus developing from the private sphere to the public sphere. Thirdly, I thought out ‘the history of public entertainments’, and explored manners of memorial services according to Sinobu Orikuti’s theory of folkloric public entertainments.

研究分野：人文学C 文化人類学・民俗学

キーワード：弔い 遺影 慰霊 供養碑 追悼式 民俗芸能 葬儀 歴史民俗学

### 1. 研究開始当初の背景

出征者・戦死者の写真、また家族写真を研究する過程で、遺影が実家にプライベートに飾られているばかりでなく、いくつかのパブリックな場でも利用されていることが分かり、遺影から新たな故人史が紡ぎ出されることがあり、研究に値すると思った。折口信夫は「民族史観における他界観念」のなかで、念仏踊りを事例として、生者と死者の共同の営みを通じて、互いの靈魂を成熟させると論じ、弔いの作法を展開している。この折口の論点を取り入れて、死者に関わる記念の行事や民俗芸能などのイベントとパフォーマンスを考察することに意義があると考えに至った。そして、2012年に執筆した「災厄と弔いをめぐる断想 - 遺影・家族写真と弔いの形」で触れた、東日本大震災の被災地の遺影・家族写真や民俗芸能に関する考察を、歴史的にさらに深めて、民俗学や宗教学の領域において新たな局面を切り開くことができると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究では、第1に、弔いに関するこれまでの歴史民俗学的研究を踏まえて、弔いの作法の変遷を分析し、“弔いの民俗史”を探究していく。第2に、これまでの戦死者・家族写真の研究を発展させて、日本・沖縄、韓国、台湾・中国の遺影またその展示法、遺影がプライベートな領域からパブリックな領域へと展開する軌跡から構成される“遺影の故人史”、死者を記念し追悼する作品、碑・像・建造物、また慣例化・習俗化された死者のための集会や行事といったイベントを民俗的慣行として位置づけて、比較研究を行い、その相違点・類似点を明らかにする。これはいわば“弔いの文化史”である。第3に、念仏踊り・盆踊りは生者と死霊が成長・成熟するための共同の営みだとする、折口の民俗芸能論は示唆的であり、そこから“弔いの芸能史”を構想し、

死者を記念した歌・舞踊などのなかから、弔いの作法を探究して明らかにしていく。

### 3. 研究の方法

本研究では、たんに遺影や葬式の写真を収集するのではなく、その所蔵者と出会って、それにまつわる話をうかがうことに重点が置かれる。これらの写真を媒介にして、個々人の記憶を喚起してもらい、遺影を飾っている意義、故人の思い出について、故人の葬式が行なわれた当時の社会的な状況と関わらせながら、話していただく。このような聞き取り調査が本研究ではなによりも重視する方法となる。また、写真の収集に際しては、プラバシーに関わるため、比較的容易に公開の許可をえられる、申請者の友人・知人、大阪大学大学院のゼミ学生・留学生、親戚、研究協力者のものを対象とし、所蔵者の許諾をえて、コピーや写真撮影をし、また借用する。

### 4. 研究成果

本研究では、何よりもまず『弔いの文化史 - 日本人の鎮魂の形』(中公新書、2015年)を刊行し、弔いや死者儀礼、死霊に関する宗教思想や民俗儀礼、靈魂をめぐる心性の変容について考察した研究成果を社会に向けて幅広く発信できたと考える。本書では、第1に、弔いに関するこれまでの歴史民俗学的研究を踏まえて、弔いの作法の歴史的な変遷を分析し、“弔いの民俗史”を考察した。第2に、これまでの戦死者・家族写真の研究を発展させて、遺影がプライベートな領域からパブリックな領域へと展開する軌跡から構成される“遺影の故人史”を明らかにするとともに、死者を記念し追悼する碑・像・建造物、また慣例化・習俗化された死者のための集会や行事といったイベントを民俗的慣行として位置づけて、比較研究を行い、その相違点・類似点を考察した。これはいわば“弔いの文化史”で

ある。第3に、念仏踊り・盆踊りは生者と死霊が成長・成熟するための共同の営みだとする、折口の民俗芸能論は示唆的であり、そこから“甲いの芸能史”を構想し、死者を供養する歌・舞踊などのなかから、甲いの作法を探究して明らかにした。

本研究は2010～2012年度の科研「東アジアにおける家族写真の歴史民俗学的研究」などを発展させるものであり、甲いという営みを遺影のたどる軌跡から明らかにするところに特色がある。遺影を民俗学的・歴史学的な資料として位置づけて考察した研究はこれまでほとんどなく、遺影のプライベートな領域からパブリックな領域への展開を“遺影の故人史”として探究したことはオリジナリティに溢れ、宗教民俗学や写真史研究に寄与できるものと考ええる。また、甲いにおける碑・像・建造物といった物と集会・行事・舞踊・儀礼的行為といったイベントとパフォーマンスを対象として関連させて、表象と言説を分析し、総合的かつ体系的に考察したことは、独創的であり、歴史民俗学や宗教民俗学に寄与できると考える。さらに、甲いに関する研究は、東日本大震災に際会した現在、その成果を単行本にまとめて出版し、幅広く社会に向けて発信していくことによって、学術的にも社会的にも貢献できたと考ええる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

川村邦光、「鎮魂のゆくえ」『岩波講座日本の思想 第五巻 身と心』、岩波書店、265-292、2013年、査読無

川村邦光、「幼子の死と甲いの形」安井眞奈美編『出産の民俗学・文化人類学』、勉誠社、192-194、2014年、査読無

川村邦光、「ジョバンニと甲いのイニシエーション：「みんながカムパネルラ

だ」考」、『文化／批評』冬季臨時増刊号(『甲いの形をめぐる歴史民俗学的研究：2014年度科研中間報告書』)、2015年、3-178、査読有

川村邦光、「甲いにおける死者と生者」、『金光教学』、55号、2015年、129-157、査読無

川村邦光、「賢治の弟子 松田甚次郎論：農と農民劇の実践」、『文化／批評』冬季臨時増刊号(『甲いをめぐる歴史民俗学的研究：科研研究成果報告書』)、2016年、3-112、査読有

川村邦光、「折口信夫の“聖戦”と甲いの形をめぐる」、『日本学報』、35号、2016年、1-24、査読有

〔学会発表〕(計5件)

川村邦光、「甲いにおける死者と生者：死者への想像力をめぐって」、第53回教学研究会記念講演、金光教教学研究所、2014年6月29日、岡山県金光町・やつなみホール

川村邦光、「天皇写真と戦死者の遺影：「聖戦」の図像を読み解く」、日本史研究会・市民講演会、2014年11月24日、京都・機関紙会館

川村邦光、「「修身」における倫理と宗教」、第61回コルモス研究会議・テーマ「倫理・道徳・宗教」現代における宗教の役割研究、2014年12月26日、京都・ANAクラウンプラザホテル京都

川村邦光、「甲いと靈魂の行方」、佛敎大学総合研究所共同研究「現代社会における宗教の力」プロジェクト「冥界からの声を聴く」、2015年2月22日、佛敎大学柴野キャンパス

川村邦光、「“聖戦”の敗北と戦死者の霊：折口信夫の甲いをめぐって」、北華大学東亜歴史と文献研究センター・大阪大学国際日本学研究会主催：国際シンポジウム「東アジアにおける戦争の記憶と歴史認識」、2015年8月21日、中国・北華大学

〔図書〕(計1件)

川村邦光、『甲いの文化史』、中公新書、  
295、2015年

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

川村邦光 (KAWAMURA KUNIMITSU)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30214696

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし